

## 藤澤 鐵雄氏

「日本人は恥の文化で成り立っている」との話聞いた事がある。どこにいようが自分自身を律する事はなかなか難しい。誰も見てないから、ちょっとだけだから、とついつい自分に甘くなるのは人間の性であるう。

日本人は昔から「お天とう様に叱られる」「ご先祖様に申し訳ない」「ご近所様に笑われる」等、自分は絶えず誰かに見られていると想定し、恥をかきたくないとの思いで自らを制することで秩序が守られてきた。現実にはお天とう様もご先祖様もご近所様も見えていないが、自らの弱さを認識し、絶えず誰かに監視されていると考えればルールも守られる。先人達は非常に合理的な発想をもって暮らしてきたと感心する。

しかし、最近はこの様な

## 恥の文化



言葉もあまり聞かなくなり、その結果とは言わないが、秩序も乱れつつあると感じている。問題はかつて恥とされてきたレベルが現代では変化してきた事に起因しているのかもしれない。電車の中での飲食や化粧は忙しい現代では時間を有効に使う手段かもしれないが、物理的に周りに迷惑をかける可能性も有り、あまり誉められた事ではない。そもそも飲食も化粧も人に見せる行為ではないはずが、堂々と人前で行う事に「恥ずかしい」と感じなくなってきたのであろう。

この「恥」のレベルが低

下したり、誰も見ていないからとの思いが強くなったりと、犯罪の抑止力も低下してくるのではと心配になってくる。万引きや窃盗などの犯罪は以前とは比べ物にならないくらい増加している。それを阻止し、検挙するために防犯カメラが至る所に設置されている。同じ人間でありながら、以前は実在しない監視者を想定して自らを制して暮らしてきたのが、最近では実際に防犯カメラによって監視されなければ抑制出来なくなってきたと思うと人間の愚かさを感じる。

ゴルフはレフリーの居ないスポーツであり、細かいルールは定められているが、それを裁定し、罰を課するのはプレーヤー本人である。つまり性善説に則っており、紳士のスポーツと言われる由縁である。日常

の暮らしでも性善説を基本にしたいが、なかなかそうはいかないようである。街中に無数の監視カメラが存在している現実、性悪説に基づいているようである。我々はそこまで陥ったのか？と残念でならない。

英語でも Shame on you! (恥を知れ!)との言葉が有る、「これをしてはいけない、あれもしてはいけない」と全てをルール化するより、人格を信じて自らを律する心に訴えるこの言葉の意味は大きい。公衆道徳や協調心が欠落しているどこかの国民と同レベルにならないように、我々は本来持ち合わせにいた「恥の文化」をもう一度見つめ直し、恥をかきたくないとのプライドを忘れず、大事にしていく必要が有るのではないだろうか。